

藤田精治 水戸市斎場の利用について質問いたします。

水戸市斎場は、昭和52年に無煙、無臭式の火葬炉等を完備、建設され、平成4年に敷地を拡張し、式場、待合棟を建設、合わせて300台の駐車スペースを確保、火葬炉8基と3つの式場を有する県内最大規模の施設であり、今日まで多くの市民が利用している施設であります。長きにわたり老朽化した火葬炉の改修、立体駐車場の整備、受付場の改築等が行われ、火葬場だけでも年間約2,000件、通夜が400件、葬儀告別式600件の利用があると聞いております。

そこで質問ですが、第3式場の洋室化についてであります。斎場の式場には、第1式場から第3式場まで3つの式場がありますが、このうち第3式場だけが和室の式場になっており、この第3式場での通夜、告別式での参列者はほとんどの人が正座をすることになり、生活様式が洋風化した近年では、若者の正座離れ、高齢者には立ち座りのときの苦痛など、式が行われる間正座を続けることは、参列者にとっては非常に辛いものがあります。

畳の間において実施される葬送の儀式が、日本的な伝統の所産としての大切さを残しておきたい心情は十分理解できるところですが、正座いすに形を変える方法もあろうかと思料されます。現代の日常生活の様式として多用されてきているいす席を採用して第3式場を洋室化することについて、市長の見解をお伺いいたします。

市長 岡田広 斎場の利用についてお答えいたします。

平成11年度の式場の利用件数は、第1式場が221件、第2式場が501件、第3式場が284件、合計1,006件となっております。3つの式場のうち、第1、第2式場は洋室で、いす席はそれぞれ500席、160席。御指摘の第3式場は135平方メートルの和室で100人の収容が可能な式場であります。第3式場につきましては、利用者の利便性や生活様式の実態を考慮しますと、御提言の洋室化について検討を進める必要があると考えております。